



塩飽最高峰から望む 瀬戸の絶景

塩飽諸島では最も大きい丸亀市沖の広島。周囲約20^{キロ}、四国側と本州側どちらの海景色も楽しめるこの島で、塩飽最高峰からの眺めに時を忘れて—。



王頭砂漠



青木海岸

丸

亀港から客船で約20分、広島県の瀬戸内海に降り立つと、塩飽諸島最高峰・王頭山のどっしりとした姿が迎えてくれます。まずは絶景を求めて一気に王頭山の頂へ！港から左に折れ、「王頭山へ」の道しるべを目印に進んでいくと、緩やかな坂の向こうに登山道の入り口が見えてきます。足場が滑りやすいところがあるため、ここで杖を借りて行くのがお薦めです。やぶを抜けて砂地と石が多くなってきた辺りが、最初のビュースポット。江ノ浦港がずいぶん小さく見え、対岸の丸亀港や瀬戸大橋の眺めもまるで箱庭のよう。とはいえ、まだまだ序の口。低木が多く傾斜も急な上りが続きますが、湾全体を一望できる標高312^{メートル}の山頂を目指し、約1時間の登山を乗り切りましょう。流した汗を忘れるほ



いろは石の碑

ドスケールの大きな眺めが待っています。山頂の北西側の斜面には、「王頭砂漠」と呼ばれる奇景が突如として広がります。丸い巨石が砂地にごろごろと転がり、その向こうには本州側の海景色。これもまた、島ならではの眺めです。さて、下山したら島を一周してみよう。海際の道あり、起伏の大きな山越えの峠道ありと表情豊かで、トリアスロンのコースにもなっていました。

島巡りの目印は、いろは順の各文字を頭文字にした名言を彫り込んだ「いろは石」といわれる句碑。広島は青木石と呼ばれる良質な花こう岩の産地として知られ、その青木石を使った句碑は島の産業の象徴でもあります。島内45カ所に500^{メートル}間隔で立っているため、距離やルートの目印にぴったり。

釜の越地区からは「波節岩灯標」が見えます。この辺りは備讃瀬戸航路が最も島に近付くため、大きなタンカーや客船が行き来する姿は大迫力。「青木石」の名にもなっている青木地区を過ぎた辺りから海景色は本州側に移り、峠越えの道や林道からは岡山県水島・倉敷辺りを対岸に眺めることができます。海水浴にぴったりの浜も点在し、遊びには絶好のロケーション。時には島に出掛けて、夏の一日を過ごしてみませんか。



エリア 丸亀市(広島)

「何でもできる島」を満喫

里海トピックス

竹炭工房さぬき広島 会長 白賀誠治さん

今回島を案内してくれたのは、生まれも育ちも広島という白賀さん。「畑で野菜を作って、海で釣りをして干物を作って、山で山菜や木の実を採って…島には何でもあるよ。年寄りが多いけど、みんなで集まってワイワイするのは日々の張り合いになるから、みんな元気」。島の活性化に積極的に取り組む一方、仲間と竹炭を焼いたり、自給自足のバーベキューを楽しんだりしながら、島を訪れる人を気さくに迎えてくれます。



白賀さん

島を一周する間も、タケノコやヤマモモの採れる場所に立ち寄り、夕日スポットを教えてくださいと、遊びの達人ぶりを発揮。それでもまだまだ島の魅力のほんの一部だという白賀さん、「帰り際に『また来たい!』という若い人も多い」というもうなげます。「にぎわいづくりにもいろいろあるけど、まずは島の人間が好きなことを好きなように楽しむのが一番。そうすれば、来てくれた人にも『広島に行くのが楽しい』と思ってもらえる島になる」と語る白賀さんの言葉が、力強く胸に響きました。